

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070800204		
法人名	有限会社 グループホーム 渋川		
事業所名	グループホーム 渋川の家		
所在地	群馬県 渋川市 金井 125-1		
自己評価作成日	平成23年8月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様一人一人の残存能力を尊重し、ご自分で出来ることは自分のペースでやっていただく。利用者のできること、やらないこと、できないことを把握し、利用者の出来ない所をお手伝いをさせていたたく。利用者様に対して待つことの大切さを認識し、できるかぎり自己決定権を尊重した自立支援のケアに努め、一人一人が1日1日を明るく、楽しく、時がゆったりと過ぎて暮らせるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

10周年を迎えたのを機会に、理念について掘り下げた話し合いを職員と行い、「明るく、楽しく、仲良く、地域の中で安心して人間らしく暮らし続ける」の理念を更に充実したものと実践することとしている。そのため、家族の協力も頂き、入居者一人ひとりが人生の最後を「ありがとう」という気持ちで日々を送ってもらい、職員もそれを励みとして働き甲斐のある事業所運営を目指し取り組むこととしている。また、排泄の言葉かけや見守り、入浴や食事の支援は、入居者それぞれの残存機能を活かし、自分で出来ることは自分のペースで行い、出来ないところは職員がお手伝いし、無理強いすることなく、一人ひとりの気持ちを大切に自立支援のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	できていない。これを機に理念とは何か？理念の意味づけ、掘り下げ作業をし、共有して実践につなげられるよう実施していきたい。	10周年を迎えたのを機に、「明るく、楽しく、仲良く、地域の中で安心して人間らしく暮らし続ける」を理念に掘り下げた話し合いを行い、人生の最後を「ありがとう」という気持ちで日々送ってもらうよう、理念に沿った事業所の運営に取り組むこととしている。	管理者と職員が理念について話し合いを重ね、理念を共有し、更なる実践につなげていかれるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年初めの道祖神祭の参加、一年おきに地域を変えて参加、付き合いを広めている。又年2回の道路清掃にも積極的に参加して交流を深めている。運営推進会議にて地域の方々と一緒におやき作りなどして交流を深めた。	管理者は、道路清掃に参加している。また、入居者は道祖神祭を見物したり、福祉センターや老人センターでカラオケを楽しんだり、地域の人達と懇談したりするなどの交流を行っている。今後は入居者が製作した貼り絵や編み物などの作品を地域の文化祭に出展することも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症について勉強会を開いて地域の方々に理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて防災訓練を実施。ご理解を深めている。	会議は自治会の3役や地区のボランティア、家族代表(順番で参加)等で構成し、隔月に開催している。毎回テーマを設けて開き、「地域との付き合い」をテーマとした会議では、地元ボランティアの皆さんと「おやき作り」を行い、「夜間想定防災訓練」では避難訓練を構成員が見物し、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に運営推進会議を通してなるべく多方面の方々で理解を深めている。	運営推進会議の案内や議事録を持参したり、研修修了報告を行ったり等機会ある毎に市役所を訪問して事業所の状況を伝えている。市の指導を受け訪問看護の活用等による看取り体制を確立するなど、入居者のサービスの質向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前、身体拘束をしていた時あり、毎月のケース会議にて、身体拘束の具体的な行為、拘束時間の減少などについて話し合った。現在は身体拘束を行っていない。玄関の施錠については安全面を考慮し施錠している。	指定基準において禁止の対象となっている具体的な行為について勉強会を行い身体拘束をしないケアに努めているが、近くに農業用水や鉄道あるいは池等があり、入居者の安全確保の面から玄関は施錠している。	職員との話し合いを重ね、入居者の安全を確保しつつ玄関に施錠しない工夫をされるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	通知文書については職員全員に目を通してもらい確認印を押してもらっている。またケース会議において、虐待と身体拘束について話し合った。虐待が見過ごされないよう防止に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	双方に該当する方が入居されており、月1回ではあるが生活実態と健康状況を報告、相談、連絡をしている。これを機に成年後見制度について学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度確認と報告を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族から意見を聞いた職員は、要望書に書き職員全員に確認印を押し、ケース会議にて話し合うようにしている。	面会時や利用料を持参した際に、家族から意見や要望を聴き記録して、要望事項を会議で検討の上、転落防止のため食堂の椅子を肘掛けに変える改善を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケース会議の中で話す機会を設けているが、その都度聴く心構えである。	月1回行う全体会議は、何でも気軽に言える雰囲気職員は積極的に発言し、介護技術の話し合いも行われている。職員の提案を受け、転倒する入居者のベッド脇に滑り止め用のマットを敷いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年4月より賃金規定を変更し、職務手当等の資格制度と精勤手当を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員については認知症について、中核症状と周辺症状の違いとケアを勉強会を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型連絡協議会において開催されるレベルアップ交換研修に参加予定。また同会における救急時の対応について参加予定。また近くに小規模多機能の施設があるため、交流する機会を作って行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、病院等なるべく多くの情報をいただき、特に最初の10日間はお本人の行動など出来るだけ細かく観察し1時間おきに記録し、情報を共有して少しでも不安などなくすように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学していただいた際にご家族が話しやすくする環境作りに努め、ご家族の話を傾聴し信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて状況判断を行い、必要なサービスを受ける事が出来るように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	挨拶やお礼を大切に、個々の状態に応じて出来る事をしてもらい生活をする事で信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係を大切にしながらも、訪問時には本人の状況を説明し、ご家族の意見も伺い一緒に考えていただけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限は無く、親類や友人など、どなたでも来て頂けるように努めている。絵手紙を届けてくださるボランティアの方に作品を作り返事をした。	家族と共に墓参りに行く人がいる。また、家族や親戚・友人などの面会は自由である。	入居者が培ってきた人や場所との関係性を断ち切ることのないよう積極的な支援を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士、一緒にお風呂に入っていたり、お互いのお部屋でお話をされたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の不幸にも参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り利用者が自己決定できるような声かけ、自立支援のケアに努めている。困難な場合はご家族に相談、毎月のケース会議などでスタッフで検討している。	コミュニケーションを通じ希望や意向を把握すると共に、意思表示の困難な人には、ありのままを観察し、表情や言動から思いを汲み取り、一人ひとりの意向に沿った自立支援のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報で紙面に上がっている以外で、各利用者のご家族から話を伺い、今まで生きてきた過程を聴いている。認知症前後の性格、趣味、睡眠時間、ご家族との関係など。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のできること、できないこと、やらないことの把握をケース会議や申し送りノートを活用し、職員全員共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が訪問した際は意見を伺い、ご本人にも色々な話を聞き、職員間では3ヶ月ごとのカンファレンスを行い、現状に即した介護計画が作成している。身体状況に著しい変化が見られた場合はその都度作成している。	3ヶ月毎のモニタリングとケアカンファレンスで、3ヶ月毎に定期見直しを行っている。また、「サービス評価表」を基に毎月介護計画の達成状況を検討すると共に、毎週開くケア会議で計画作成担当者と職員との情報交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、気づいたことはその都度記録し、更に必要なことは申し送りノートの活用、毎月のケース会議にて職員全員で情報を共有しケアの実践や介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	救急搬送時の渋川中央病院との連携、訪問看護の連携で緊急時、健康面をバックアップしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	洪川地域でも外出、花見、ピクニック、ブルーベリー狩りなどの行事を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医がかかりつけ医の利用者様が9名中7名。残りの2名は協力医ではないが、かかりつけ医となっている。	かかりつけ医の受診は原則家族が対応しているが、状況に応じて職員が同行している。訪問看護師が週1回巡回し入居者の健康管理を行うと共に、協力医は隔週往診し診察内容に変化がある時は電話で家族に報告して情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1日訪問看護が訪問している。その都度、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	洪川中央病院と緊急時の提携を結んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年1月に看取り介護を行った。事前にご家族、職員、訪問看護師により、ターミナルケアについて会議を行った。またターミナルケアについて毎月行うケース会議でも話し合った。	市役所の指導を受け訪問看護ステーションを利用し、医師や家族の協力が得られることを条件とした看取りを行っている。また、看取りに当たっては職員の共通認識を得るためケース会議で話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態に備え、緊急ファイルを作成し、全職員、緊急時の訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回は防災訓練を実施。運営推進会議においても防災訓練を行い、地域との協力体制の必要性においても話し合った。	毎月夜間を想定した避難訓練を行い、総ての職員が体験するようにしている。地域の人の協力体制も築かれ、入居者が入居者の車いすを押して避難するなど避難できるよう取り組んでいる。当初は6分掛かった避難時間を消防署の指導を受け2分に短縮したが、更に短縮するよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	可能な限り、利用者の尊重を大切にしている。入浴、起床などの拒否がみられた場合は時間をおいての対応、声かけなどを行っている。	排泄の言葉かけや見守り、入浴や食事の援助は、無理強いすることなく、残存機能を活かし自分で出来ることは自分のペースで行い、出来ないところは職員がお手伝いをしている。入居者一人ひとりの気持ちを大切にしたい自立支援のケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位で決めるのではなく、利用者本位で決定できるような声かけを心掛けている。自己決定しづらい利用者様においても二択にした声かけなど工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行きたくない、入浴したくない、夜間テレビを観ていたいなど、可能な限り対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に伺い、どんな髪型が好ましいのか知った上で散髪をしている。またなじみの化粧品などご本人に伺ったうえで、使用してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方にはお茶を配っていただき、下膳もしてもらっている。食器拭き、トレー拭き、テーブル拭きなども促し行ってもらっている。行事などではホットプレートを使用し、利用者様と楽しみながら作っている。	業者からカロリー計算等がされた食材を購入して、入居者に合った味付け等の調理を職員が行っている。入居者の希望を取り入れたおやつ作り、或いは月1回のお楽しみ食事会又はベランダでの流しそうめんやバーベキュー等を行っている。入居者は後片付け等を行い、職員は同じ食卓を囲み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をチェックをし食事、水分不足な方には時間をずらし提供し、水分については好きなもの、コーヒーや牛乳、ポカリなど提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人一人、歯磨きの動作を把握している。可能な方には声かけのみの利用者様、体調に応じてできるときと、できないときの利用者様など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、歩行困難な利用者様も自己決定を尊重しながらトイレ誘導している。トイレの場所がわからない利用者様はその都度説明をしている。	排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握し、適時の誘導を行うと共に、言葉かけはプライバシーを損ねないよう行い、見守りを中心とした排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を提供している。散歩したり、ラジオ体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間を通してチェックしている。また仲良い利用者様同士一緒に入浴されたり、入りたいと希望された利用者様に対しても可能な限り入浴されている。	週2回の入浴が原則であるが、入居者の時々の希望により随時入浴している。入口には「温泉」の暖簾を掛け、くつろいで入浴できるよう広い浴槽が設置され、時には仲の良い人同士が入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くない時は無理に居室へ誘導せずにホールにて一緒に過ごすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、内容を把握し、状況に応じて薬の変更をしてもらっている。また状況の変化がみられた場合には、ご家族、看護師、医師に報告、連絡、相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌ったり、塗り絵や貼り絵、あみものを一緒にしている。タオルたたみや洗濯干しも手伝っていただけの方には手伝ってもらっている。食べたい物、楽しくやっていたことなど、行事jに生かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や行事などで外出している。花見やブルーベリー狩りなど、行事をしたときにもご家族の参加を促し参加してもらった。	家族の協力でドライブを行うと共に、事業所では花見や遺跡見学等を計画的に行っている。日常的な外出支援は職員の勤務体制や入居者の健康状態・天気の状況等を見て散歩しているが、日誌に記載していない。	車いす利用者であっても、外出することによる気分転換を図るなど、日常的な外出について支援されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者9名中1名、小銭程度ではあるが、所持している。また事業所でおこづかい帳があり、随時希望に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話などの希望がある利用者様に対して支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事、写真、草花、錦鯉など、また手作りの版画など常に生活感、季節感を取り入れている。	共用空間における空気の入替え、音や光、臭気等に配慮した事業所運営を行っている。錦鯉の大きな水槽が置かれ、壁には干支の張り絵や行事の写真が飾られ、生活感や季節感が感じられ、暮らしの場としての工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったもの同士の席替え、ソファー、ペランダソファーと工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はなるべくお願いして、住み慣れたものの、使い慣れたもの、ご自分の好みのものをお持ちするよう促している。	テレビや家具・家庭で使用していた布団や枕が持ち込まれ、自立支援の面から出来る人は室内の整理や掃除を行っている。また、毛糸で編んだ人形が置かれ、ボランティアの絵手紙が飾られるなど、安心して居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食後居眠りをする方が多いので、両肘をつけるソファーを用意。また車椅子の座りずれ防止マットを検討、実施。		